

「障害者対応のインドアペタンク教室」 川口弘一（富士見丘小地区・4期目）

国立市にある「東京都多摩障害者スポーツセンター」を会場に、前年度から始まった「障害者対応のインドアペタンクの教室」の指導が、今年度も7月14日を皮切りに9月29日までの間に6回行われた。

私はこのうち2回対応したが、8月14日の教室には30人（男性16人、女性14人）が参加、車椅子での参加者も3人いました。この中には手が思うように上がらない人、サークルまで行くのに時間のかかる人、車椅子に乗ったままの人など参加者の状況は様々であるが、すべての人が楽しそうに、真剣に取り組んでおり、好感のもてる場面であり、指導のし甲斐を強く感じました。

また、投げたボールが思うところに行かないときの悔しがり方や、逆にビュットに近づいたときの満面笑みを見て、自然とエールを送ってしまいました。

時計を見ながら、2組に分かれてゲームに入った。練習のと



きよりも真剣さが増し、誰からとなくお互いにチームメイトに指示を出したり、聞き役に回ったり、スポーツならではの光景である。

そのような中で、残念に思ったのは、ビュットにしろ、ボールにしろ、かなり具合の悪いものがあることだ。予算事情もあることだが、ぜひ改善してほしいと思った。

ゲームが始まり、1試合3メー又で終了、少々メンバーを入れ替えて2試合目を終了したところでタイムアップとなった。

参加者からは、勝ち負けにこだわらず、「次回も参加したい」との声が多く聞かれた。

「第62回昭島市民体育大会開会式」 石川英次（玉川小地区・8期目）

昭島市のスポーツ行事最大のイベントである62回目の「昭島市民体育大会」の開会式が、9月13日午前10時からKOTORホール（市民会館）大ホールで実施されました。

昭島市民体育大会は、各地域の小中学校の校庭などで10月に行われる自治会ブロック別運動会と、昭島市体育協会加盟の競技団体が8月から翌年1月にかけて実施する競技別市民大会から成っています。

開会式は、一昨年まで主に昭和公園陸上競技場で実施されてきましたが、残暑厳しい炎天下での体調不良者が出たり、また、雨天での学校の体育館の使用などから、昨年以降、天候に左右されずに空調の効いたKOTORホールで開催されるようになりました。

開会式は、昭島市青少年吹奏楽団によるファンファーレと行進曲演奏の中、ホール最上段からプラカードと旗を手にした選手団が入場、自治会連合会第1

ブロックを先頭に第20ブロックまで続き、その後体育協会加盟26団体が入場行進をしました。参加した選手団のほかの皆さんは、初めから客席に座り、自分たちの団体が紹介されると立ち上がって拍手で迎えています。

続いて、開会宣言、国歌斉唱、主催者及び主管団体長あいさつ、来賓祝辞、競技開始宣言、バドミントン協会の小学生による選手宣誓、演奏となりました。

スポーツ推進委員は、参加団体の受付、開会式の司会、入場行進の整理、駐輪場の案内、ホール内の案内などを担当して、開会式の運営に協力しました。

